



建築・空間分野 | 量産型住宅
優秀賞(林野庁長官賞)

積水ハウス シャーウッド ～純国産材プレミアムモデル～

積水ハウス株式会社

評価ポイント ハウスメーカーの取り組みとして国産材の使用が本格化しているが、これは柱と梁を100%国産材化した商品であり、消費者に対して、地域ブランド材の価値を可視化するコミュニケーションプログラムも併せ持っている点が秀逸である。地域材のブランド価値向上とユーザーの地域への思いの醸成の両立を満たしている。同様の実践が、他のハウスメーカーに浸透していくことを期待したい。

概要

積水ハウスの木造住宅『シャーウッド』において、柱と梁をまるごと国産材化した商品。柱については本物志向の地域ブランド材(杉:秋田杉・吉野杉・飢肥杉、檜:木曾檜・吉野檜・美作檜)を準備。お客様のお住まいの地域に近い産地で育った地域ブランド材を使用することが可能で、住まいへの愛着や地域材(国産材)への関心を促します。また、最も使用量が大きいにも関わらず、強度面から一般的に国産材活用のハードルが高いとされてきた「梁」についても、国産材を贅沢に使用しています。住宅の構造性能についても、北産材を使用する場合と変わらない高いレベルを実現するために、国産材の柱・梁の品質を確保。出荷量の増加に対応するために、新たなメーカー様や生産者様とのネットワークを構築し、樹種を追加しました。地域ブランド材の構造柱には樹種と産地を印字して表現し、建築中の現場でも見学のお客様、近隣の方、工事関係者が身近に感じ、国産材の魅力が伝わるようにしています。

◆<https://www.sekisuhouse.co.jp/sustainable/2014/report/biodiversity/wood/4/>
価格:仕様、プランに応じて異なる
入手先:積水ハウス株式会社 全国(沖縄県除く)の支店にお問い合わせ

008



コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続)
優秀賞(林野庁長官賞)

アベマキ学校机プロジェクト

岐阜県立森林文化アカデミー、美濃加茂市、可茂森林組合、美濃加茂市立山之上小学校、株式会社丸七ヒダ川ウッド、岐阜県森林研究所

評価ポイント 上級生が机を作り1年生に贈るという、木づかいの思いが引き継がれていく点、学校という継続性のある仕組みの中で取組まれている点は意義深い。木の机作りも6年生の木工であれば無理なく作りやすく学校教育、木育の面からも評価できる。取組全体にまとまり感があり、ステークホルダーすべてが関与していることは重要である。

概要

アベマキ学校机プロジェクトでは、岐阜県美濃加茂市北部に群生しているアベマキを使い、地元の小学校で生徒たちが毎日触れる学校机の天板を制作します。アベマキはかつての薪炭利用がなくなり放置され、かつ材の性質も反りや割れなどが激しいため木工用途としても活用されてきませんでした。しかし非常に硬い材であり机の天板用の材料としては最適です。乾燥試験を繰り返し、反り、割れなどの欠点を克服することで有効利用を促します。このプロジェクトでは、生徒らは、5年生の冬にアベマキの伐倒現場を見学します。伐倒されたアベマキは製材、乾燥され、天板に加工しますが、6年生になったらその一部を体験します。こうして出来上がった天板は翌年入学してくる新一年生に贈られます。この流れを毎年実施しながら、里山の整備と地域材の循環、そして子どもたちへの地域の自然に対する心を育てていくことを目的として、岐阜県美濃加茂市、可茂森林組合、岐阜県立森林文化アカデミーが中心となり、地元の小学校や製材所などと本活動を進めています。この地域内で完結する身の丈にあったプロジェクトということも特徴です。

◆http://gifuforestac.blogspot.jp/2015/08/blog-post_20.html

006



コミュニケーション分野 | ビジネスモデル
優秀賞(林野庁長官賞)

キシル 六次産業化プロジェクト

株式会社キシル

評価ポイント 六次産業を川上からだけでなく、ユーザー目線から迎えるという逆転の発想に新たな展開の可能性が見えてくる。ウッドデザイン賞に相応しい優れた取組である。消費者ニーズを正面からとらえ、自社の開発プロセスに活かし、地域での協業につなげていく本来自来あるべきバリューチェーンを目指している点を評価した。

概要

農業や水産業ではよく見られる六次産業だが、キシルでは林業での六次産業化を目指している。現在は製材工場「キシル東工場」と加工工場「キシル南工場」が稼働。将来的には山林の購入も視野に入れている。

六次化のメリットは木材生産の時点でコスト管理ができることである。販売計画をもとに伐採や製材、スムーズな製造を進めることが可能で、消費者のニーズを各プロセスにタイムリーに反映できる。ユーザーから届く要望や情報をもとに、地元の林業家や製材・加工業者とも積極的に連携している。

◆<http://www.xyl.jp/html/muku.html>

009



コミュニケーション分野 | 普及・啓発(システム化)
優秀賞(林野庁長官賞)

東京おもちゃ美術館「ウッドスタート」

特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会

評価ポイント 生まれた土地の木で赤ちゃんのおもちゃを作り、贈る。川の流域、地域、木材産地など汎用性がある取組であり、木のおもちゃと子どもの育ちという点に温かく、卓越したメッセージが込められている。同様の仕組みで他分野への展開の可能性も感じられる。

概要

ウッドスタートは、東京おもちゃ美術館が取り組んでいる木育推進事業のこと。「ファーストトイは地産地消の木のおもちゃから」を合い言葉に、全国各地の自治体が、地域材を活用した東京おもちゃ美術館監修のオリジナル木製玩具をプレゼントする事業を展開しています。2011年4月に東京都新宿区が開始したのを皮切りに、北海道雨竜町、群馬県上野村、東京都檜原村、岐阜県美濃市、宮城県日南市、沖縄県国頭村など、13の自治体がすでにウッドスタート宣言をしています。さらに今年度末までに、10近くの自治体が宣言を予定。全国各地にウッドスタートの風が吹き荒れています。このウッドスタートは、当該自治体の誕生日祝い品事業にとどまりません。同じくウッドスタート宣言をした企業(良品計画、内田洋行など9社)が、社員やお客さんにプレゼントする誕生日祝い品としても採用されています。東京おもちゃ美術館のイベントや全国ネットワークを活用しての販売も行われています。「地産地消」から「地産外消」へ。そしてもちろん赤ちゃん時代にとどまらず、食器や勉強机、ベッド、マイホーム、最後は棺桶まで、くらしの中に木を取り戻す運動でもあります。

◆<http://mokuikulabo.info/ws/>

007